

道道登別停車場線・道道洞爺湖登別線の 歩道バリアフリー化及び無電柱化整備

■現状と課題

本路線は、駅前商店街を通る地域の主要な道路であり、登別駅利用者である通学・通勤者や多くの外国人観光客などが行き交うなど、JR登別駅と国道36号及び登別温泉を結ぶ重要な幹線道路として利用されています。

2020年には独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO登別病院）が開院、白老町における民族共生象徴空間（ウポポイ）の開設に伴い、市内外の病院利用者や国内外の観光客が訪れ本路線利用者の増加が見込まれます。

さらに、2021年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されているほか、2022年度には本市において駅前広場に隣接し、アイヌ文化や観光情報などを提供する情報発信拠点施設を建設する予定であり、本路線利用者の一層の増加が見込まれます。

また、駅利用者の利便性向上に向け駅舎のバリアフリー化についてJR北海道と連携して取り組む方向で協議しているほか、道道から病院へ通じる市道の整備においてバリアフリー化したところでもあります。

面的整備を行うことにより福祉に優しくにぎわいある駅前通りとするため、登別駅前広場の整備とともに本路線の歩道のバリアフリー化及び無電柱化の整備が必要です。

■要望内容

●歩道のバリアフリー化及び無電柱化

【全体計画】

- 登別市登別東町
- 歩道バリアフリー化延長 L=約500m
（うち無電柱化延長 L=約280m）



■事業効果

- 観光振興の強化
- 地域活性化
- 防災強化
- 歩行者、自転車、自家用車、バス、タクシーなどの交通の安全確保と利便性の向上